

小佐々中学校の実践

(1) 地域人材を活用した実践（教科での実践）

①国語科での実践

○「漢詩の世界を広げる」

中国出身の地域にお住まいの方をお招きして、漢詩を中国語で味わう学習を行った。生徒達は、中国語独特の発音に触れ、漢詩の世界を広げて味わうことができた。



○「主張のある文章を書く」

主張文を書くために、地域の経験豊富な方々をゲストとしてお招きし、座談会を行った。経験から語られる知識や思いは、生徒に刺激を与え、書く意欲へとつながった。主張文を書き上げたのちに行った弁論大会にも、協力していただいたゲストの方に来ていただき、講評をいただいた。



②技術・家庭科での実践

○水産教室

漁業士会および九十九島漁協の協力により、指導はもちろん材料の提供もいただいている。漁業の町であるが、中には魚を触ったことがない生徒や、魚のおいしさに改めて気づく生徒もいる。講師の方には、魚の調理だけでなく小佐々の漁業についての話もしていただき、地域食材を知るために意義深い学習である。

○着物着付け教室

着物着付け教室は和服に関心を持ち、和服の文化を受け継ぎ伝えることを目的として行っている。慣れない着装に戸惑いながらも、和服の良さを感じ取ることができた。



水産教室



着物着付け教室

③音楽科での実践

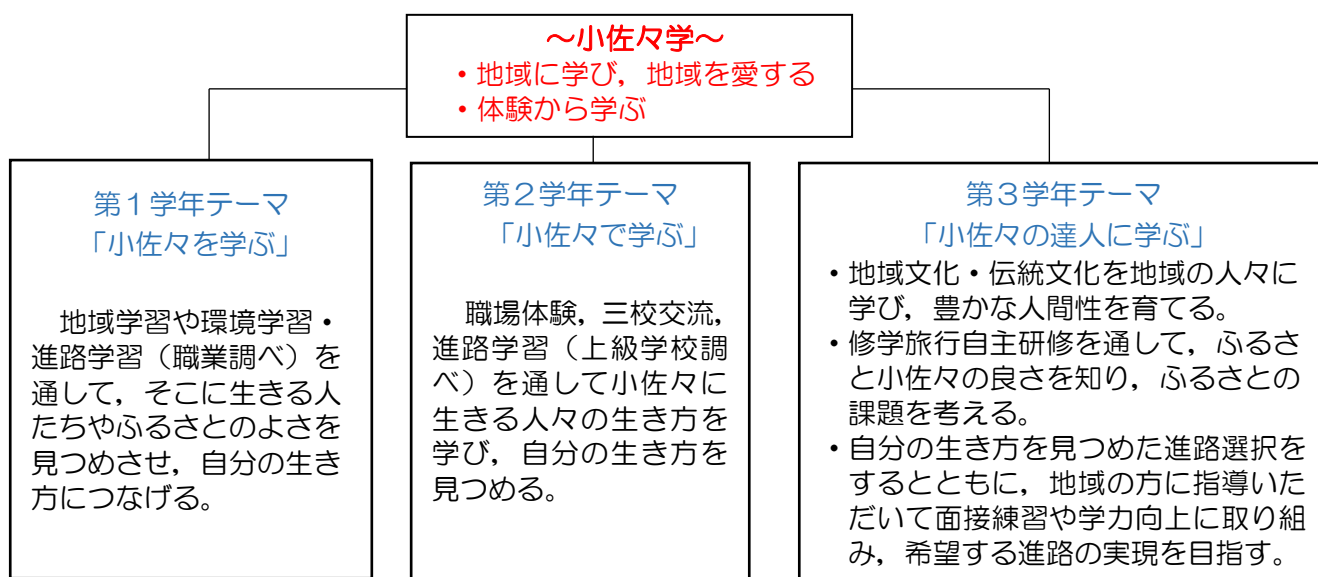
○合唱コンクールに向けて

合唱コンクールの課題曲・自由曲の練習の時間に地域の方に指導していただいた。音を取る段階でのパートごとの練習では、音楽科の教師一人では指導が行き届かないのが現状であった。複数の指導者がいることで、授業1時間が充実したものになった。



(2) 地域教材・地域人材を活用した実践（総合的な学習の時間の実践）

①全体計画



②1年生の取組「小佐々を学ぶ」

ふるさと歴史発見学習（地域教材を生かした実践）

今年度は全体テーマ「小佐々学」を受け，1年生では「小佐々を学ぶ」というテーマを設定した。そのため，昨年度までは，佐世保市内の戦跡（針尾送信所・無窮洞など）を巡るコースで実施していたが，今年度は「小佐々地区」の史跡を巡るコースで実施した。

小佐々地区には多くの史跡が残されているが，小佐々小学校校区・楠栖小学校校区ともにかつて炭鉱があり，炭鉱町であったという共通した歴史を持っている。そのため，炭鉱に関する史跡を中心に巡り，ふるさと小佐々を知り学ぶという学習を設定した。生徒達は自分たちの住んでいる小佐々地区の遺跡や歴史に触れ，発見や驚きもあった。

- 事前学習 小佐々郷土資料館の見学
 - ふるさと歴史発見
 - ① 世知原炭鉱資料館（炭鉱に関する学習）
 - ② 大悲観・大悲観岩陰遺跡（平戸八景の一つ）
 - ③ 永徳寺（鎌時代に建立された寺院）
 - ④ ホッパー跡（石炭を出荷・積込まで貯めておくための貯炭槽および機械設備）
- 車窓から大平炭鉱跡などの見学



世知原炭鉱資料館



大悲観



ホッパー跡

環境ISO（地域教材を生かした実践）

平成18年度から引き続き行っている取組である。平成19年度には環境にやさしい学校づくりを推進するための認定制度である佐世保市学校版環境ISOの認定を受けた。

昨年度は，環境についての講義（佐世保市環境学習支援室の講座）を受けたあと，地域事業所へ出向いて，どのような環境への配慮をしているかインタビュー調査を行った。その後，調査をもとに地域での取組と自分たちの環境への取組を比較しながら報告書をまとめ，環境に対する意識を高めている。この学習を通して，3校交流（2年生の取組で紹介）で学んだ清掃時の水の使い方や校内に掲示してある環境カルタの内容がしっかりと理解でき，実践につなげる

ことができた。

今年度は、環境ISOがスタートして10年を経過したため、この10年の歩みをまとめる学習を行っている。その成果は文化祭で発表する予定である。



環境インタビュー（門田建設）

③ 2年生の取組「小佐々で学ぶ」

職場体験学習（地域教材・地域人材を生かした実践）

主に小佐々町内の事業所での4日間の職場体験学習を行っている。事前学習として、フレッシュワーク佐世保から講師を招いたマナー講座を開催し、体験学習の意義を考え、事業所での礼儀作法を身につけて学習に臨んでいる。

働くことについて学ぶことはもちろんであるが、地域の方との交流や地域の産業・職場について学ぶことも成果として大きい。保育所で職場体験学習を行った生徒は、保育所の頃の様子を知る先生に成長した姿を見ていただき、体験学習への意欲もますます高まった。老人介護施設で学習を行った生徒は、高齢化する地域の状況を感じ取り、高齢者への接し方を振り返ることにつながった。



※本発表会では、職場体験学習で学んだことや考えたことをもとに、海光る町学園の小学校教師をゲストに迎えた座談会を行う。

高校生に学ぶ（地域人材を生かした実践）

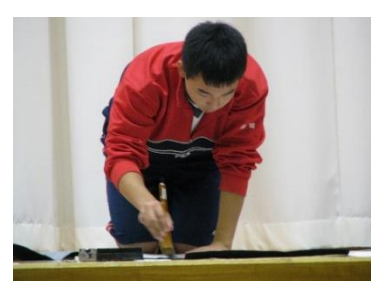
上級学校調べ学習の一環として、卒業生を招き、高校の様子を直接尋ねる学習を行った。現役高校生の声を聞くことで、自分の適性にあった進路を選択しようとする意欲が高まった。



④ 3年生の取組「小佐々の達人に学ぶ」

地域文化・伝統文化体験（地域人材を生かした実践）

地域の文化や伝統文化を学び、豊かな人間性を身につけることを目的として行っている。最初に全生徒が開講する全てのコースを体験したあと、自分の興味にあったものを選択して体験を深めている。成果は文化祭で発表し、講師の先生方だけではなく、地域の方へも披露している。（本発表会の公開授業 ☆別冊資料編参照）



修学旅行（地域の良さを知る実践）

修学旅行では、訪れる場所について調査し、ふるさと小佐々との違いを学ぶ。昨年度は、英語で外国人観光客にインタビューをした。お礼として小佐々地区の名所の写真を載せた絵はがきをプレゼントした。相手のことを尋ねるためには、自分のことや自分のふるさとの事をきちんと知り、そして英語で話すことができるように準備しなければならない。旅行先で調査したことを確認するとともに、ふるさとへの思いも強めることができた。



（3）小学校からの乗り入れ授業

小中一貫型小・中学校として、小学校の教師が中学校の授業にどのように関われば効果的か模索しているところである。今年度は小学校と中学校の学びのつながりを確認するところに重きを置いて実践している。



① 1年生授業参観

5月に6年生時の担任に中学校での学習の様子を参観していただき、情報交換を行った。以下は小学校教師・中学校教師の感想である。

- 小学校と中学校の英語授業の違いがわかった。教科担任制なので緊張感のある授業であった。
〈小学校〉
- 理科の授業では、一緒に観察をしながら、小学校在学中に気になっていた生徒に声をかけた。
〈小学校〉
- 生徒は、小学校の先生にがんばっている姿を見てもらい、喜んでいた。〈中学校〉
- 生徒の情報交換ができ有意義であった。〈中学校〉

② 2年生座談会への参加

職場体験学習を通して学んだことをもとに、これまでの自分を振り返りこれからの自分を見つめるために、小学校の教師をゲストに迎えた座談会を行う。生徒にとっては小学校の先生に中学生として成長した姿を見せ、教師にとっては学びのつながりを確認する場としたい。
(本発表の公開授業 ☆別冊資料編参照)

（4）おわりに

これまでも地域人材や地域教材を活用した実践を行ってきたが、総合的な学習の時間など一部に限られていた。昨年度コミュニティ・スクールの立ち上げに当たって、教科の授業でどのように地域人材を活用できるかを考えた。現在さまざまな教材・題材での活用案は出ているものの、地域人材を発掘できるところまでは至っていないものもあり、今後は地域学校協働本部の支援に期待したいところである。国語科や音楽科で行った地域の方の豊かな経験や専門的な技能による授業は、生徒の興味関心を高め、学習意欲につながっている。これからは、学力向上につながる地域資源の活用を工夫したい。

小中一貫型小・中学校としての取組は模索中であるが、ひとつの学園として小学校と中学校の垣根がなくなってきたことは確かである。共にカリキュラムを作成する中で、小佐々地区の子どもの特性や課題、小学校と中学校の学びの系統が明確となってきた。今後は、特性を伸ばし課題を解決するために、中学校教師が小学校のどの授業のどの場面で関わるか研究していきたい。また、小学校教師が中学校の生徒とどういった関わりをしていくかも考えていく必要がある。このことは、小佐々地区全体の学力向上につながっていくものと考えます。